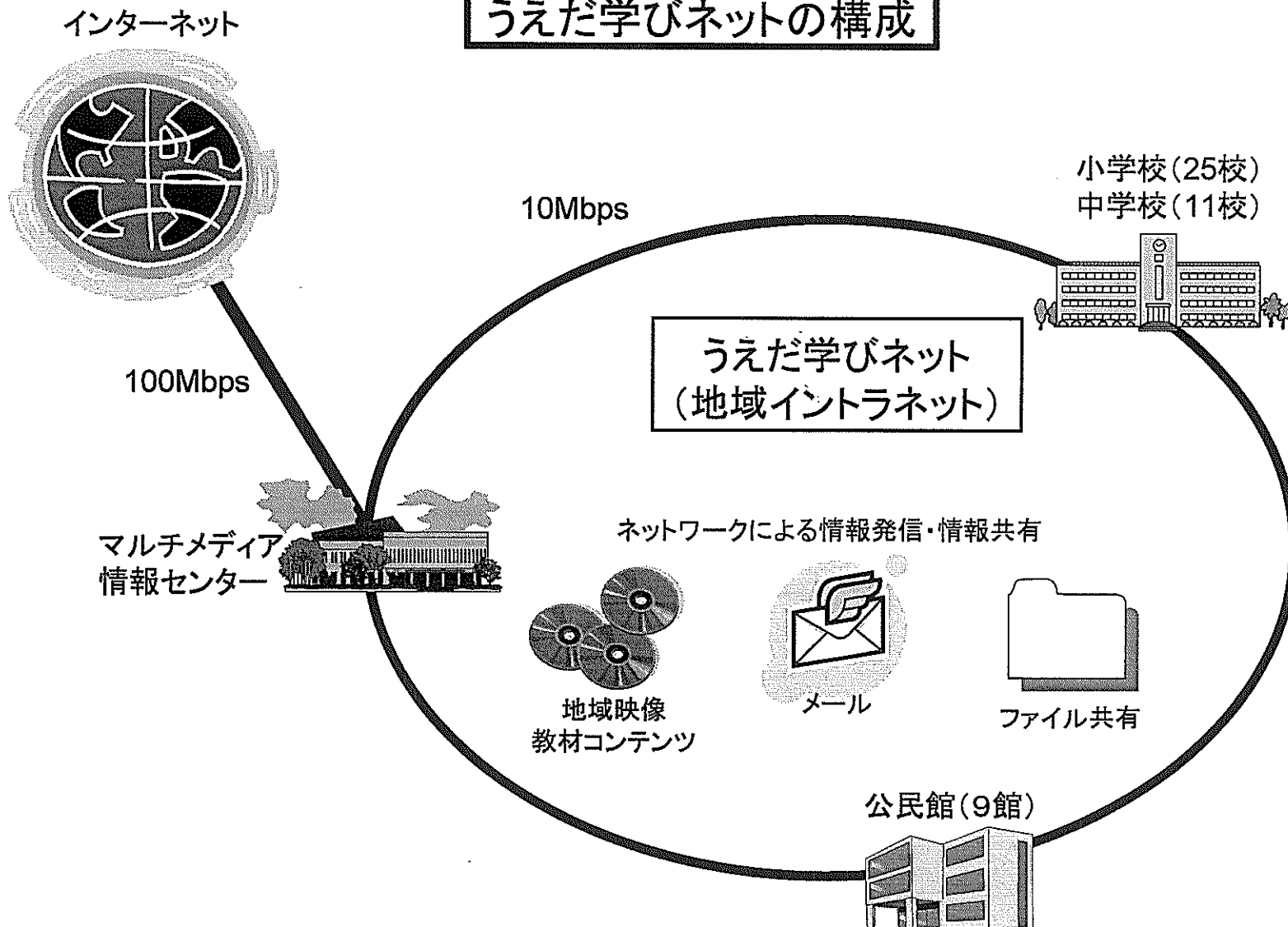


うえだ学びネットの構成



- 高速な地域イントラネットにより、市内文教施設で高品位なコンテンツ視聴、メール、ファイル共有などが可能。
- 情報センター経由で外部のインターネットのホームページ、コンテンツも見られる。

I Tの学校教育への活用について

「上田市教育行政有識者会議への報告」

平成19年6月27日（水）

清水卓爾

1、はじめに

上田市の小中学校のでいじめ、不登校については、相談所の増設など対症療方的対策はいくつか取られてきました。しかし、これを未然に防止する抜本的な対策は、いまひとつ具体性に欠けていると言わざるを得ません。

過日 私のかつての同僚だった友人が、小学校に孫の授業参観に行き、現在の学校の課題について問題点を鋭く指摘していました。「何時間か授業を参観したが、自分がうけた半世紀前とほとんど同じ手法で授業が行われていた。黒板と教科書、副教材が中心で進歩がない。魅力がない。分かりにくい」「もっと、ITなど現代のテクノロジーを活用して、こどもをひきつける、魅力的な授業をしてほしい」と感想を述べていました。

私も教育委員になった6年程まえに、久しぶりに小中学校の授業参観に行き、友人とほぼ同じ感想をもちました。

現代のこどもたちは、良いか悪いかの論議は別にして、生まれたときから、テレビやビデオ、DVDなどの録画映像、さらにテレビゲーム、パソコン、携帯電話と情報の洪水の中で生活をしています。もちろん、従来の教育の手法も大切ですが、最先端技術を授業に取り入れる工夫も必要です。

上田市で、中学になると不登校が増えるのは、様々な要因があると思いますが、学力の不振も大きいと思われます。楽しい学校、わかりやすい授業、たしかな学力の定着には、ITの積極的な活用が求められます。

2、IT活用の現状

*国のE-JAPAN戦略にもとづいて、文部科学省でも「学校のIT環境の整備」

「教員のIT指導力の向上」など教育の情報化や国際的にも活躍できる高度IT人材の育成、ITを活用して、学びたい人がいつでもどこでも学習できる環境の整備を進めています。

*公立学校の現場でも、近県では、岐阜県、静岡県浜松市、富山県滑川市、長野県内でも塩尻市、松本市、長野市で、積極的に学校の授業にIT技術を取り入れて成果をあげています。IT活用に積極的な長野県の3都市では、市教委に情報担当の指導主事をおいて授業の情報化の支援をしています。

*上田市教委では、平成18年度を初年度とする3か年計画の、学校情報化基本計画を作成し、IT活用によるわかる授業、質の高い授業の展開をめざしています。

*上田市では、平成13年度、高速の光ファイバーによる「地域イントラネット」を完成させました。当時は23の小中学校、6の公民館を結んでいました。

現在は、36の小中学校と9つの公民館にネットワークは拡大しています。

(資料参照)

*「うえだ学びネット」として運用をしています。情報センターで、有害情報が教育施設に入らないようにセキュリティ管理をしています。共用ファイルで児童、生徒の個人情報情報を管理し、情報センターを経由してインターネットの検索をしています。

*最初は、この情報網はほとんど利用されていませんでした。水道管を敷いても水の流れない状態でした。

上田市情報推進課と上田市マルチメディア情報センターでは、4年前から地域イントラネットを活用して、学校教育の情報化を進めようと市教委をサポートして動き始めました。

3、上田市の学校情報化の課題

(1) 教育の情報化に極めて精通した情報教育の指導主事の採用。

市教委の計画では、平成20年度から予定していますが、学校をリードしていける能力の高い人材でなければ進展しません。

(2) 市長の英断で、今年度中に市内の教師全員に公用パソコンが配備されます。

次の段階に進むため、市教委主導で早急に具体策が望まれます。

(3) 教育界からITアレルギーの一扫(特に県教委、市町村教委の上層部)

(4) パソコンルームでの利用だけでなく、全国的には、普通教室、特別教室で日常ITを活用する時代に入ってきています。

一挙に全校のすべての教室にプロジェクター、スクリーンを設置することは、財政的にも困難と思われれます。意欲の高い学校から重点的に配備して成果を確かめる事が大切です(モデル校の指定)(プロジェクター 1台30万円)

(5) 教師に対するIT機器の操作、情報セキュリティ、情報モラル、メディアリテラシーの研修。

(6) ITを活用した公開授業、研究会での検討

(7) 教師が中心になった地域教材の開発、市長部局、マルチメディア情報センター、ケーブルテレビ、NTTなどとの連携

(8) 市販・NHK教材等の研究と活用

(9) マルチメディア情報センターのデジタルアーカイブ・コンテンツの活用

(資料参照)

(10) 学校ホームページのいっそうの推進、学校の情報公開、地域との連携。

4、IT活用について

*小中学校

IT活用による基礎基本の充実

漢字、計算練習ソフトによる基礎基本の定着
情報活用の実践力の育成

コミュニケーション能力を育てるテレビ会議
情報社会に対応する知識の育成

メディア・リテラシー、情報モラルの学習
IT活用で分かる授業

デジタルコンテンツ（動画、写真、アニメ、地図、グラフなどの教材）を活用
して分かる、楽しい授業の実現

*基礎学習ソフトの一例を紹介（B社・漢字反復練習）

小学校の1年から6年までの漢字の読み書きが入って行っている

例えば3年生の3学期に300の漢字を覚えなければならないとする。

書き取りのテスト・・・1回10問がプリンターからアウトプットされ学習

教師がチェック、A君は7問正解・間違った3問をA君が
入力

後日、この3問がミックスされて10問出題

これを繰り返すうちに、多くの児童が漢字をマスター

1時限で、8枚から10枚の漢字練習

慣れてくると休み時間にも、児童がゲーム感覚で使用
算数の計算も同様のソフトでテストを繰り返す

浜松東小の報告から

結果 （1）漢字力・計算力の変容

漢字、計算共にテストごとに点数の高い段階に移行

事前に定着力の低かった児童も確実に上位に移行

（2）学ぶ意欲の変容

自分の進捗での学習に満足感 熱心に取り組むようになる

考察 コンピューターの使用で習熟度に差が会っても指導しやすい

上位生は自分のペースでほとんど手をかけないで学習、

教師は下位の児童の支援に時間をかけられる

個人の学習の様子がデータ化されることで、どこが苦手かが浮き彫り

になり、保護者に具体的な話ができ自主学習のアドバイスが充実

単調なドリルではあまり身の入らなかった児童が、意欲的に量をこな

す姿が見られ、自分の進捗にあった学習は大きな魅力

（一斉型学習から自主型学習に）

まとめ ITを活用し個に応じた問題での学習は、基礎基本の定着に大きな

効果がある、児童の習熟度の差にも対応しやすい